

全ての「社長のひとりごと」がWEBで読める！  
『くぼかわよしみち.com』毎月20日更新!!

くぼかわよしみち.com

検索

ホームページ

- asahiglobal.co.jp
- global-mie.co.jp
- super-chintai.com
- goldtrust.co.jp
- goldage.co.jp
- kubokawayoshimichi.com

# 『サ高住・実践編』

## ②『運営の基本と経営ソフト』



アサヒグローバル株式会社 代表取締役  
ゴールドトラスト株式会社 代表取締役  
ゴールドエイジ株式会社 代表取締役

文／久保川 議道  
text:Yoshimichi Kubokawa

8回コースで、『成功するサ高住の実践』についてお話しています。前回の第①回の『経営理念と経営戦略』に続いて、今回は第②回『サ高住の運営の基本と、経営ソフト』に必ず必要な経営ソフトの『さつきちゃん』のご説明をさせていただきます。

まず言葉遊びの様ですが、『サービス付高齢者向け住宅』が正式名称ですね。国交省さんは『サ高住』と言いますし、厚労省さんは『付付き』と言います。省庁の考え方の違いでしょうか。プライドでしょうか、呼び方が違います。なんか変で、まぎらわしいですね。

自社で開発したPCソフトの名前を何にするかで迷いましたが、2つの商標登録をしてみました。『サ高住君』と『付付きちゃん』です。そして社内で検討して、やはりレセプト請求やソフトの配置人員もソフトで出来ますから、厚労省さん側に立って『さつきちゃん』と命名しました。『サ高住経営専用ソフトさつきちゃん』です。宜しくお願い致します。

このソフトは請求だけでなく、ソフト作りや配置人員の全ての運営、お金も含めて社員の評価システムや利益計画の予定実績も作れるソフトです。ですから『経営ソフト』ですね。私は最初の8棟目ぐらまで、介護専用ソフトを買って使っていました。1台300万円、8棟で2400万円。あとケアプラン用の別ソフトと、出退社のタイムカードソフトやその他で500万円。合計で4000万円でしたがこれを全て2年

で捨ててしまいました。訪問や居宅や通所のPCソフトでは当時の『高専賃』の運営は全くできません。仕方なく上場企業の介護ソフト会社に、当社の運営ノウハウと独特のやり方を教えて、製作していただきました。4000万円程かかりましたが、そのソフトは私の物ではありませんね。そのソフト会社の介護ソフトを40%くらい変更して作ったのですから、私にはその40%の分には権利はありませんでした。

まあ権利などはいらないのですが、その後もよりよく改善したいのですが、大変にソフト設計が重くて直すたびに多額の費用がかかりました。それで私は大決心をして自分のところでソフト開発を始めて2年、やっと完成することが出来たのです。それでまた2回目のソフトも捨ててしまいました。今回の開発費用も含めて1億円が消えてしまいましたが、私としては大満足ですね。

この経営ソフトがあれば難しいサ高住の経営でも『黒字』が出る訳です。このソフトを売ろうかとも考えたのですが、必要と考えていただければ、ご理解をいただけたところには『無料貸与』すると決めてしまいました。ぜひお使いください。これは私の別の業界の建設業でも、私は2億円近くかけて経営ソフトを作ってきました。私の会社は1日の売上と支払いと利益が毎日出る『日決算』の会社です。発注も図面も支払いも切の伝票や紙はありません。すべてインターネットで

終わってしまいます。こんなことは日本の建設会社ではどこもやっていませんから、私の会社は日本一安い建設費でも毎年何億円も利益を出すことができたと思います。そして介護医療の業界に入って一番最初にびくびくしたのがPCソフトの貧弱さでした。レセプト請求ソフトは立派ですがそれ以外はもう何も無いのが現状でした。仕方なく5年かけてこのPCソフトを作らざるをえなかったのが本音です。やはり現代の経営では数字をしっかり把握することが大事です。すいません、失礼な言い方ですが医療介護の世界は『親方日の丸』ですから、レセプト請求さえ出来ればやっていけるんですね。これもびくびくりでした。

しかし『サ高住』は甘くはありません。これは民間の企業対企業の戦いですから、二分単位の人員費と円単位の売上と支払いが分からないで経営などは出来ません。それはコンビニやスーパーや大手商社やデパートや遅れているドンブリ勘定の土建屋さんでもやっている最低限のことです。しかし医療介護の包括請求と、厚労省さん主導の決定に従うしかない点数制度の中では忘れられていますね。非営利の医療法人や社福さんはそれでもいいのですが、この『サ高住』はそうは行きません。

厚労省さんと国交省さんが財務省さんに強く後押しされて、民間企業のお金と知恵を活用しないともう日本の介護と高齢者医療はやっていけないと判断したのです。このままほっておけばから始められる医療法人様や介護会社様は、やはり実態を知っていたら、ゴールドエイジを見学していただいて、スタッフの皆さんと十分にお打ち合わせをして始めてください。紙面の関係上これで終わりますが、私の別冊2号の『サ高住はやらなくてください(①)③』を参考にしてください。ホームページではメールアドレスを入力されますとこのページに入れますし、守秘義務契約をクリックしていただきますと、パスワードがすぐに配布されて次のページに入れます。企業秘密も多いのですが、是非ご覧ください。

もう一言『運営について』は『さつきちゃん』に全て入っていますから資料請求願います。またホームページが面倒であれば、『社長のひとりごと』①②を資料請求ください。お送りいたします。5年間の苦労話と経営と運営が全て書いてありますから、参考になるのではないのでしょうか。利益や商売としてだけでなく、『サ高住が日本を救う』と真剣に考えて私は活動しています。ご理解をいただければ幸いです。宜しく願い申し上げます。

(さつきちゃんソフト設計の概要をプリントして同梱いたしました。参考にご覧ください。)

ゴールドトラスト(株)  
アサヒグローバル(株)  
代表取締役 久保川 議道

護医療は『破綻』です。そこで5年間の『高専賃』の新しい試みに挑戦して、このころ法律を変えて、制度ミスや失敗を重ねて、たくさん民間の会社を倒産させて、そして今回やっと『サ高住』で再スタートさせました。建設や税金免除に多額の補助金を付けて、本来サ高住は建たない調整地域に建設許可を出して、在支診に大量の点数をつけてドクターを誘導しています。

霞ヶ関の話では、『もう待たなしの政策』として必ず30万戸、60万戸を民間に建設させるんだ、と言っているそうです。在宅診療にも完全誘導ですし、この政府の方針は3年後には国から県への地方交付税に変わるらしいのですが、これから10年間は厚労省さんだけの政策ではなく、日本国の方針として施行されるのですから、はじをはずされることもありませんね。安心して国策に乗っていいのではないのでしょうか。

さて次に『サ高住の運営』について申し上げますが、財務省さんは何故そんなにサ高住に力を入れて国策にするのでしょうか...それは一言で言ってしまうと、補助金や点数誘導はありがたいのですが、『サ高住の運営』は『利益が出ない』からです。下手すればみんな赤字経営でしょうね。それが財務省さんの狙いです。しかし赤字で以前の高専賃のように入居率50%で倒産だらけでは、財務省さんも困りますから倒産しないギリギリ

の所へ『誘導』しています。補助金で15%（建築費10%±5%減税合わせて15%相当として）建設事業費を助けて、できれば医療法人のドクターにこのサ高住をやってほしいのですから、在支診に在医総管での点数を上げて誘導しています。もともと分かりやすく言うと、サ高住の介護はギリギリか赤字。その分を医療で収益を上げましょう。補助金も15%出しますからね。これで財務省さんは『石五鳥』です。

二石五鳥とは①介護施設の療養型で一人当たり介護報酬が『4.5万円』老健で『3.0万円』特養で『2.8万円』特定で『2.0万円』。サ高住の訪問介護は『8万円』ですから一番安いですね。ということは運営会社は赤字かギリギリと言うことです。②サ高住は『看取りの場』と計画されていますから、終末期の多額の医療費が無くなりますね。多少多く在支診に点数誘導しても全く問題はありません。これで医療費崩壊もなくなりますね。

③国は施設には多額の補助金を出してきましたが、もう財源がありません。しかし6%の諸外国なみの『高齢者住宅』が日本では1%しかありません。あと5%のアップとは、高齢者3000万人の5%は150万戸ですから、それを民間に建てさせたい。故にたった15%の補助金ですむのですからありがたいことです。

④日本はドクターもナースも人数が足りませ

ん。それで『サ高住』を医療行為の場にして、ヘルパーやケアマネにも医療を含めて管理させたいのですね。ヘルパーにも吸痰や胃瘻の指導が始まっています。⑤今現在の急性期病院の入院は15日ですね。しかし退院させても行く所がありません。そのための『サ高住』と国は計画しています。私のゴールドエイジの50人の入居者が去年十一月に『7人の看取り』をさせていただきましたが、りっぱな建物と設備とヘルパーとナースと在医総管のドクターが居れば可能です。はい、これで『石五鳥』ですね。

さてやっと今回のサ高住運営の核心ですが、①の『赤字か、赤字がなくてもギリギリの経営』について申し上げます。たくさん倒産した以前の『高専賃』で、介護をつけていた所は一人当たり16万円を予定していました。それが実際にやってみると、13万円も無理。10万円も無理でした。当社でも訪問介護で8万円です。と言う事でみんな多額の赤字です。私で11億円のお金を捨ててしまいました。(私どもは当時業界第二位の人数660人程ですが、第位の上場会社はたった3年間で15億円の赤字を計上していました。)

はい、と言うことで、いくら『サ高住』になったからと言って、介護の運営の仕組みは全く同じです。運営には最も注意が必要です。しかし残念ながらいくら注意しても、運営の正しいノウハウがないと『赤字』です。私はもう8年間苦労いたしましたから、今現在は大変『黒字』ですが、これ